

# 煮つまった音に涼風

小川 典子

小学校高学年だった。テレビで放映されたアンドレ・ワッツのリサイタルに、私は強烈に惹きこまれた。ドビュッシーの「映像」「水の反映」。輝きをもってよどみなく湧き出る音の数々に、世の中にこれほど美しい曲があったのか、と驚愕した。ワッツの演奏している体の動きを、今もって克明に記憶している。

それまで私はドビュッシーに対して、大学生がこそこそと言うときには取り入れない作曲家、と妙な先入観を持っていた。おとなびた先輩たちが、ドビュッシーは押しが弱いですよ、と話していたように思い出されるのだ。ところが、私が聴いたワッツのドビュッシーは鮮烈であった。音色は躍動感に満ちて粒立ちがよく、一点の曇りもない。

## 文化 学問



クロード・ドビュッシー (1862-1918) ・フランスの作曲家

## 音楽の革命児 ドビュッシー

生誕150年



「ドビュッシーの反映」音楽祭が開かれた英国のアリッジウォータールで(小川さん提供)

この日から、私はドビュッシーに憧れを抱き、おとなの目をぬすんでは楽譜を取り出し、こっそり弾いてみるようになった。



2012年は、ドビュッシー生誕150年。そして、日本が初めて欧州に使節団を送らせたこと。

この日から、私はドビュッシーに憧れを抱き、おとなの目をぬすんでは楽譜を取り出し、こっそり弾いてみるようになった。

り、煮つまった音楽に涼風を吹き込んだわけで、その行動は実に革命的だった。

ドビュッシー独自の作曲法の確立は、あえて「やっばいいけない動き」を積極的に取り入れることから始まった。

複数の声部を平行進行させ、あらゆる音の扱いで決まりをやぶった。音階は「あてもなくさまよう」ように音と音とを同間隔にし、方向性を消滅させた。そこには、東洋音楽や東洋文化の影響を色濃くみることが出来る。私生活では

詩人や美術家たちと交友をかさね、音楽の王道からは離れた私が今あらためて、感謝の気持ちを持っている。

クラシック音楽は、どの曲も厳しい規則に従って書かれている。学生時代、対位法による作曲課題を出されたことがあるが、留学先の小さなアパートで西洋音楽の厳重な規則に七転八倒、このとき作曲家たちの音楽技術の偉大さを実感した。ドビュッシーは、音楽理論を十分に精査したうえで、音楽に風穴を開け、広い大気に解き放った。つま

開国を間近に控えた日本の欧州使節団。迎えうつ欧州で

は、東からの静かな動きを察知し、革命的な作曲家が生を受けた150年前。文化の地盤は西へ、東へ、少しずつ歩みを始めたのである。

私は小さい頃からピアノが好きで、一生ピアノを続けていくことを信じてきた。しかし、レッスンが厳しかった小学生時代、先生に恵まれなかった暗い学生時代を思い起すと、心に何か鬱屈したものを抱えこんだことは否めない。その煮つまった心にも涼風を吹き込んでくれたドビュッシー。この革命的な作曲家に、遠い東洋の果てで生まれた私が今あらためて、感謝の気持ちを持っている。

(おがわ・のりこ ピアニスト、英マンチェスター「ドビュッシーの反映」音楽祭企画担当)



開国を間近に控えた日本の欧州使節団。迎えうつ欧州で

(おがわ・のりこ ピアニスト、英マンチェスター「ドビュッシーの反映」音楽祭企画担当)